

Revelación (啓示) ~月光より~

2014. 6. 15 新宿芸術家協会公演 The Danca Gathering Vol. 18 “ベートーベンを踊る” 四谷区民ホール



ピアノの音のご託宣？

小林伴子

毎回テーマを決めて公演を行う新宿芸術家協会のコンサートに今年も参加しました。今回のお題はベートーベンでした。フラメンコとベートーベン、接点無し…。でも私はベートーベンと聞いてすぐに心に浮かんだ曲がありました…。

もう10年以上前になりますが知人からピアノをいただきました。引っ越しを期に古いピアノを処分したいとのこと。何となくスペインでのバレエの稽古場でピアノのマエストラが来て、生演奏のレッスンがあったなあ良い雰囲気だったなあ…などと思い出して…。下さい！と言ってしまいました。でもピアノが来て、ピアノを弾けない私だったのですが何気なく鍵盤に指を載せると、その黒い音箱からすごく良い音がひびいて…。

やわらかく広がりのある、つやのある音色でとても心地よかったです。ああ、このピアノを弾いてみたいと思った時に心に浮かんだのがベートーベンの月光のアダージオでした。

当時私は50才ちょっと出たころでしたので、60になったら月光を弾けるようになりたい。と一大決心をして、ジャズピアノニストの斉藤さんに相談しました。以来斉藤さんに指導を受け現在に至っています。

そんなわけで、月光はたくさんたくさん聞いて、弾いて、私にとってはピアノは月光！となったわけです。





ベース：吉野弘志 笙：豊 剛秋 バイレ：小林伴子

弾けるようになったのかって？…。想像にお任せしますが、とにかく私の“ベートーベンを踊る”は月光第1楽章がテーマとなりました。

前置きが長くなってしまいましたが、“月光を踊る”と決めてからが大変です。やさしい、流れる様な「完全完成」の曲をどの様に踊るのかフラメンコするのかは大問題となりましたが…ひらめきが有ったのです。それは太田豊さんが創った朗読とギターと歌と和楽器による「くもの糸」という作品を聞いた時にやって来ました。

その作品に笙の演奏家豊(ぶんの)さんが参加していたのですが、その時聞いた笙の音色が音が発散し上方に飛び散り、それが光となってふりそそぐ様に感じられました。

後で聞くとその演奏方法はとても彼独自の物だったようなのですが、その音と月光が結びつき、そして低く支えるベース音と…等々インスピレーションが浮かんで作品の方向性が決定しました。

そして私のピアノの先生である齊藤智子さんがフラメンコとジャズとクラシックが一緒にうまく進行出来る様にリード譜とジャマーダのようなフレーズを作曲してくれて一気に作品が現実のものとなりました。新宿芸術家協会の公演はいつもお題を出されて、とてもこのテーマではとびつくりしながらもそれだからこそ意外な新しい可能性が生まれてくる私にとっても楽しみな会になっています。

